



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 父兄会秋季部会が開催されました

教育委員長 井上 美津子

平成22年度の父兄会秋季部会は、10月23日の土曜日の午後1時より開催されました。秋季部会のご父兄と指導担任との個別の懇談が中心となっています。最初に各学部の部会が行われ、歯学部は旗の台校舎4号館6階600号室にて約30分ほ



ど全体会議を行いました。宮崎歯学部長から最近の昭和大学歯学部の現状報告を含めた挨拶、井上教育委員長から学部間連携教育を含めた新しいカリキュラムの説明と進級試験・卒業試験の説明、立川学生部長より最近の歯科医師国家試験の説明などが行われた後、学年主任・副主任の紹介と指導担任の紹介がありました。その後懇談会に移り、基礎系の各教室やPBL教室、会議室などに場所を移してご父兄とそれぞれの指導担任との面談が行われました。例年、歯学部は4学部のなかでも最もご父兄の出席率が高く、本年の出席率も48.8%と最も高い割合でした。とくに2年生から4年生のご父兄の出席率は50%以上となっていました。面談では、日常の学生生活や講義への出席状況、試験の成績などについて熱心な話し合いがなされました。また5、6年生のご父兄からは、臨床実習の状況や卒業試験の成績、歯科医師国家試験への準備や臨床研修のマッチングから将来の進路まで、さまざまな質問が出されたり、意見交換が行われました。



午後3時30分からは場所を7号館(50周年記念館)へ移して懇親会が開かれました。他学部のご父兄とも合流して、7号館はご父兄と教員で満員の盛況でした。美味しい料理と飲み物で、ご父兄と教員間やご父兄同志の話にも花が咲き、和やかな時間が過ぎました。歯学部の同窓生の子弟も増えたため、一部同窓会的な雰囲気のところも見受けられました。日が暮れる頃、名残惜しいなかで懇親会はお開きになりました。

出席いただいたご父兄をはじめとして、指導担任の先生方、教務部の皆様、ありがとうございました。

## 平成22年度解剖慰霊祭開催される

口腔解剖学教室 江川 薫

平成22年度解剖慰霊祭は10月19日(火)午後2時より、多数の御遺族、大学関係者、学生の列席のもと、上條講堂でしめやかに行われました。本年度慰霊された物故者は平成21年9月から平成22年8月までの間に御逝去され、病理解剖または正常解剖に供された233柱の方々です。このなかには歯学部の解剖学実習のために献体された27柱が含まれています。歯学部の解剖学実習は4月から7月にかけて行われ、解剖させていただいた御遺体と御遺族の方々への感謝の意を込めて歯学部2年生全員が参列しました。

開会の辞に続いて、物故者の御冥福をお祈りして参加者全員で黙祷が捧げられました。昭和大学を代表して医学部法医学教室の佐藤啓造教授が祭文を述べられ、引き続き学生代表として歯学部2年の大山真司君が弔辞を述べました。片桐学長より参列者に対して御礼と感謝の気持ちを述べた御挨拶があり、最後に参列者全員が献花を捧げて午後3時に解剖慰霊祭は終了しました。



## 第96回アメリカ歯周病学会共催日本歯周病学会2010年大会に参加しました

歯周病学教室 小出 容子

2010年10月30日～11月2日まで第96回アメリカ歯周病学会(AAP)共催日本歯周病学会(JSP)2010年大会がハワイ州ホノルルにて開催されました。寒い東京からコートにセーターというハワイには場違いの格好で、医局員総勢18名が常夏の地に到着しました。朝8時から10時まで General Session, 30分間の Break の後13時まで各種 Education Course が行われ、その後の昼食で終了するというスケジュールでした。これが歯周病学会?と疑うほどのインプラント関連企業展示の多さと、14時になった瞬間電気が消されて会場から追い出されるアメリカンスタイルに圧倒されました。昭和大学からは、当教室より JSP ポスターに4名、歯科矯正学教室より AAP Research Poster Session に2名発表しました。そのうち、ポスター賞の最終選考に当教室の鈴木一成先生、歯科矯正学の田口先生が残りましたが、残念ながら僅差で受賞には至りませんでした。アメリカは訴訟社会で、保険制度も日本とは異なるため、インプラントと比べて治療期間を要し、予後不確定な部分を含む歯周組織の再生療法は敬遠される傾向がますます強くなっています。今回のテーマの中で目についたのは、前歯部での歯間乳頭再建等の審美などで、インプラント治療でも細部へのこだわりを感じました。この10年での日米の潮流の違いを大きく実感しましたが、一方で天然歯・インプラントを問わず口腔組織疾患と全身疾患との関係についても、大きなテーマとして取り上げられていました。



## 行事予定

広報委員長 井上 富雄

12月4日(土) : 昭和歯学会, 大学院 I 期入試  
1月15日(土), 16日(日): センター試験  
1月29日(土) : 選抜 I 期・センター試験利用入試(I 期)

## 米国骨代謝学会に参加しました

大学院4年(歯科補綴学専攻) 丸山 敏史

10月15日から19日にかけて、カナダのトロントにある Metro Toronto Convention Centre で開催されました ASBMR(The American Society for Bone Mineral Research: アメリカ骨代謝学会)に参加させて頂きました。学会会場はとても広く、期間中は毎日ポスターの貼り替えが行われました。毎日500枚弱のポスターが掲示されますので、期間中に約2000枚のポスター発表となり、学会の規模の大きさには驚きました。もちろん全て英語なので、自分が興味のあるポスターを見るだけでもかなりの時間が掛ってしまいました。様々な国の方々の間で活発な質疑応答が行われており、自分も質問して下さった方と英語でディスカッションが出来て良い経験になりました。トロントは、真冬の気温がマイナス40度になることもあるそうですが、街も人も暖かい雰囲気とても過ごし易く、都心部を少し離れば大自然の素晴らしい景色も堪能出来ます。学会の合間に出かけたナイアガラの滝は、一生に一度は御覧になる価値があると思います。今回、このような機会を与えて下さいました上條教授、馬場教授をはじめとする各教室の先生方に心より感謝いたします。



## 受賞

広報委員長 井上 富雄

・佐野 晴男 教授(総合歯科): 10月20日に厚生労働省大講堂にて、永年にわたり東京都の国民保険審査に携わった功績により、国民健康保険功績者厚生労働大臣表彰を受賞されました。



## チュービンゲン大学国際シンポジウム に参加しました

歯科補綴学教室 石浦 雄一

9月24日、ドイツ南西部のチュービンゲン(Tübingen)大学で開催された Modern/Advanced State-of-the-Art Dentistry Including Implantology – An Asian/European View と題された国際シンポジウムに参加しました。出席者は世界各地から集まっており、昭和大学からは宮崎隆学部長、樋口大輔講師、及び私の3名が出席、宮崎教授は Spark erosion technology can increase the biocompatibility of titanium implants の演題で講演もされました。どの演題も興味深いもので聴衆はみな熱心に耳を傾けていました。



樋口先生と私はそれぞれ一年間、このチュービンゲン大学の補綴科・インプラント科に留学しており、講演の合間には当時の旧友達とも束の間の再会を果たし、楽しい一時を過ごす事が出来ました。

今回のシンポジウムは、主任の Heiner Weber 教授の還暦記念で行なわれたもので、早朝から行なわれたシンポジウムに引き続き、夜には近くのベーベンハウゼン(Bebenhausen)という美しい小さな村にある修道院で、約150名の参加する盛大な祝賀会が催されました。ジャズトランペットや、弦楽四重奏団、ポップなバイオリンソロ、更には Weber 教授のご令嬢によるフルート演奏と歌の披露があり、合間には各国からの来賓の挨拶がありました。還暦祝いという事で日本から持参した赤いちゃんちゃんこを着て頂くなど、和やかなパーティーが深夜まで続きました。



## 白菊会連合会総会開催される

口腔解剖学教室 江川 薫

平成22年度白菊会連合会総会は10月31日(日)午後1時30分より日比谷公会堂で開催されました。関東地方への台風の直撃が心配されましたが、明け方には台風は通過し、総会は無事に開催することができました。総会には白菊会連合会に加盟している9大学12学部の会員と同伴者合わせて約1165名の出席予定があり、そのうち昭和大学歯学部白菊会会員および同伴者は46名の出席予定でしたが、台風の影響もあり、欠席された会員も若干おられました。当日は口腔解剖学教室の教室員が昭和大学歯学部の出席会員のための受付及び座席への案内を担当しました。



今年度の総会当番校である杏林大学医学部の松村譲児教授の開会の辞で始まり、物故者の方々のご冥福をお祈りして黙祷を捧げました。杏林大学の跡見裕学長の挨拶の後、文部科学省高等教育局医学教育課長、日本解剖学会理事長、日本篤志献体協会理事長、篤志解剖全国連合会会長、白菊会連合会会長の諸先生の祝辞が続きました。解剖学教育に貢献された先生への感謝状贈呈の後、会務報告および加盟大学の紹介が行われ、次担当番校の防衛医科大学校の小林靖教授の閉会の辞により総会は一旦休憩に入りました。休憩の後、東京外国語大学名誉教授の国松昭氏による「大正天皇と大正時代」と題する講演があり、来年の総会での再開を約束して午後3時30分に会は終了しました。

## ゲノム支援に採択されました

歯科矯正学教室 山口 徹太郎

文部科学省科学研究費新学術領域研究(研究領域提案型)『生命科学系3分野支援活動』『ゲノム科学の総合的推進に向けた大規模ゲノム情報生産・高度情報解析支援(略称:ゲノム支援)』における支援研究課題の公募において「ゲノム医学支援活動」分野に採択されました。これまでの歯学分野におけるゲノム科学、ゲノム医学研究が果たした功績はまだ小さいかもしれませんが、これを機に咬合異常における病態の理解、発症リスクの予測あるいは予防法の確立への展開が期待できるものと考えております。

## ロサンゼルス便り

歯科補綴学教室 伊東 令華

2010年4月よりカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)に通うようになり、私は Implant center での手術見学を主に、部分床義歯の学生実習や研修医の補綴系の授業に参加し、残りは補綴系の外来を回っています。

私が所属している Advanced Prosthodontics の部分床義歯学講座は、RPI クラスプで有名な Dr. Kratochvil によって立ち上げられた教室です。そのため、学生は1回の講義時間を目一杯使い、RPI の基本概念をたたき込まれます。部分床義歯の設計も支台装置は RPI が第1選択肢となっていて RPI が設置できない場合に他の支台装置を選択するほどです。このような細かな違いは多々ありますが、補綴学全般としての教育内容は私が日本で受けたものとあまり変わりはありません。でも、学生はとても積極的で、質問があれば授業中にかかわらず挙手し、質問します。また、授業終了後も質問がある学生が先生を取り囲んでいるのは当たり前前の光景です。ただ、飲食をしながら講義を受けたり、ルーズな格好で実習を受けたりしています。

ロサンゼルスには UCLA を含め留学されている日本人の先生も多く、月1回のペースで勉強会をしています。

色々な分野の先生も参加され、その先生方から、各分野におけるアメリカの最新治療の話を知ることができ、刺激を受けると共にとても勉強になります。



知り合いがいなくて異国での新生活を立ち上げるのにはとても苦労しましたが、半年もたつと大部慣れ、様々なハプニングも楽しめるようになりました。

残りの留学生活もより充実したものとなるよう、頑張りたいと思います。

## 診療統計(平成22年10月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	18,011	720.4	707.5	695.3
入院患者	400	12.9	13.9	14.2

## 平成23年度推薦・編入学試験が実施されました

入試常任委員 山本 松男

平成22年11月7日(日)に、平成23年度歯学部推薦・編入学Ⅰ期試験が旗の台キャンパスで行われました。

推薦志願者数は34名で、昨年から20人減少しました。これは本学に限った変化ではなく、日本社会を取り巻く経済的状況が思わしくない中で、全国規模で歯学を目指す生徒が前年比2割減ともいわれています。本学も志望者数は減少しましたが、志望動機等の記載や面接試験等から、歯学への志のしっかりとした受験生が集まってきているのを感じます。歯科医療の重要性を認識した上で、本学の目指す教育方針に魅力を感じているものと判断をしています。編入学Ⅰ期試験では若干名の募集に対して15名の応募がありました。こちらも将来を見据えた考えを持つ受験生ばかりです。今回は、薬学部・保健医療学部との入試問題の一部共通化のうで実施しました。当日は一人の欠席者もなく、無事終了致しました。合格発表は11月9日(火)午後3時に旗の台校舎での掲示及びホームページで行われ、推薦入学試験では31名(男子15人、女子16人)が、編入学試験では5人(男子4人、女子1人)が合格しました。

今後実施される平成23年度入試のセンター利用Ⅰ期・Ⅱ期、選抜Ⅰ期・Ⅱ期、編入学Ⅱ期の各試験では、小論文試験を実施しないことが前年度からの変更点です。教職員の皆様には今後とも御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

試験	募集人員	出願期間	試験日	合格発表
センターⅠ期	約4名	H23.1.4~1.21	H23.1.29(土)	H23.2.5(土)
センターⅡ期	約2名	H23.2.7~2.21	H23.2.27(日)	H23.3.1(火)
選抜Ⅰ期	50名	H23.1.4~1.21	H23.1.29(土)	H23.2.1(火)
選抜Ⅱ期	約5名	H23.2.7~2.21	H23.2.27(日)	H23.3.1(火)
編入Ⅱ期	若干名	H23.2.7~2.21	H23.2.27(日)	H23.3.1(火)

## 編集後記

口腔微生物学教室 片岡 嗣雄

年の瀬も近付き、急に寒くなってまいりました。皆様、どうぞご自愛下さい。お忙しい中、原稿を執筆してくださった先生方に厚くお礼申し上げます。